学校番号	２１５

平成 31 年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の美術２　（日本文教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・美術を学ぶとは、何が美であるのかを探る行為を通して、物事の本質は何なのかを考えることである。
・作品としての良さは、発するパワーや表現の強さ深さなどに加え、制作者が表現したいものや表現方法にこだわりを持って制作し、試行錯誤を重ねることで到達することができるものとしている。実際に制作しつつ、国内外の様々な作家や作品に目を向けて幅広く知識や技術を学ぶことにより、その良さを知り自身の取り組みの意味や喜びを見つけて得た成長の成果でもある。
・鑑賞するとはその作品から学ぶことであり、優れた作品に接することで、技術的な面だけでなくその作品の本質を知ることができる。作品を見る目を養うことによって、自己の作品制作に求めるものや、完成はどこであるのかを考える力をつけることができる。

2　学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術の諸能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	・課題に関心を持ち、主体的に積極的に取り組んでいる。 ・こだわりを持って取り組み、より良い作品になるよう試行錯誤しつつ制作している。 ・準備、後片付けに至るまで、課題を念頭におきつつおこなえている	・課題に対し、自分なりの解釈や表現を試みている。 ・常日頃からの様々な芸術文化、社会への関心の深さが発揮されている。	・作業手順を理解し、無駄なく動けている。 ・材料、道具の特性や良さを生かして表現している。 ・それぞれの作業を丁寧に行っている。	・学んだ分野や特性、その課題の魅力を理解して、自他の作品や国内外の作家の作品を鑑賞している。 ・学んだ材料、道具についての知識を持ちつつ、独自の観点で作品の良さを見つけている。
評価方法	・作品 ・ワークプリント	・作品 ・ワークプリント	・作品	・ワークプリント

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	絵画	「鉛筆デッサン(靴)」 ・自分の靴(登校時はいてきたものの片方)を持ってくる ・靴の配置、画板(画用紙)の位置、姿勢、視点をよく吟味して構図を確認する。 ・まず大づかみに形を取り、輪郭線のみで描かないようにする。 ・線を重ねて明暗の調子をつけていく。 ・徐々に細部まで観察し、描き込んでいく。 ・大きな視点も失わず、質感まで表現するように描き込んでいく。	○	◎		○	a:１本の線で終わろうとせず、よく見て線を重ねながら形をとらえようとしている。 b:靴の存在感が表現できている。 d:立体物としての成り立ちを考えて、形をとらえたり陰影をつけたりしている。	製作中の様子 作品

	立体	「私の靴」 ・ダンボールを素材にして、実物大の靴をつくる。 ・底の部分から作り始める 厚みの違い、反り、などをよくj観察し、ダンボールを自由に加工して作る。 ・側面、上面と制作を進める ダンボールをたたいて柔らかくする、薄くはぐ等の加工をする。 ・紐、金具、ゴム底、などの表現方法(すべてダンボール)を工夫する。 ・彩色のための下塗りをする ・彩色をする 何度も重ねる、剥がす、汚す…などの描き込みで質感まで表現する。	○	◎	○	○	a:制作中の靴を忘れず、必ず持参する。参考作品と同じようにするのではなく、しっかり観察して自分で考えて製作する。 b:徹底的な観察を基にして制作するが、そのことによって実物以上の存在感を表現できている。 形のいがみや特徴をどのように表現するかの工夫がある。 素材や色、汚れ、使い込んだ質感など彩色での表現にとことんこだわっている。 c:ダンボールを十分柔らかくして使っている。 接着すべきところがしっかり着いている。 それぞれの部品が正確に作れている。 d:実際の靴の製作過程にも興味を持ってよく観察し、理解している。	製作中の様子 作品

2学期	立体	「人物を作る」 ・自分のテーマとする人物像を創造する（小説家が登場人物を創りだすように） ワークシートに文章で記入し、アイデアスケッチをする。 ・台板の形を描き、糸鋸で切る ・針金で人物の骨格を作る ・台板に骨格を固定する ・粘土をつけていく 台板にもつける。 下付けし、乾いたら更に付けていく。 人物の特徴を考えながら肉付けしていく。 ・頭髪、手先などの作り方を工夫する。 ・人物以外の小物（表現上効果的なもの）が必要であれば作る。 ・彩色する 必ず下塗りをする。 作品全体の雰囲気を色調で表現する。 それぞれのものの質感を出す。 人物の表情をつくる。	○	◎	○	◎	a: オリジナルな人物像を創るにあたって、文章や映像など様々なところから材料を集めようとしている。 人物のポーズや服装なども、思い付きではなく、スケッチしたり資料を見るなどしている。 b: テーマがしっかりしていて、高校生ならではのとらえ方が感じられる。 テーマをどのような場面で表現するか、に工夫とわかりやすさがある。 骨格、肉付けなどのデッサンができている。 細部や、台部分・小物などにも十分こだわっている。 彩色でうすっぺらくなってしまうことなく、絵の具を重ねたり、他の画材を使うことで、よりリアリティを持たせるよう追求している。 c:針金をうまく扱い、人物の骨格がバランスよく作れている。 針金がしっかり固定されていてぐらつきが無い。 d:＜かわいい＞や＜かっこいい＞だけの人物像ではなく、現代社会の様々なことに目を向けることによって生まれる発想豊かな想像力を膨らませてイメージを発展させている。	

3学期	絵画・デザイン	「箱型パズル」 ・箱型パズルの構造を理解する。(3枚の板で制作)。 ・外形のデザインをする 小さくならないようにする 左右対称を避ける。 ・実物大下絵を描く 外形の内側に枠2本 ・ピースのデザイン 作品の構想を活かすようなピースの割り方を考える ・板を糸鋸で切る 3枚重ねて外形を切る 1枚を枠2本とピースに切り離す ・全てにヤスリがけをする ・枠を貼って、箱の形を完成する ・彩色する 全てに色を塗る 箱とピースの表の面に絵を描く。または模様を描く。	○	◎	◎	○	a: デザインをいい加減にして制作に入ろうとせず、ピースの分け方にいたるまで、試行錯誤している。 ヤスリがけなどの作業を手抜きせず、丁寧に行っている。 b:無駄のない形でありながら、ユニークな外形である。 箱の表とピースのデザインをうまく関連させ、ふたを開けたときの効果を考えている。 ピースの絵柄と形の関係に工夫が見られる。 とことん描きこみをして、物として見るだけでなく、触れたくなるような魅力を表現している。 c: 糸鋸をうまく使ってまちがいなく切っている。 使用後の掃除をきちんとしている。 ヤスリがけが丁寧に十分にできている。 蓋の開け閉めなどスムーズにできる。 d: 3枚の板をどのように使って箱と中身のピースを作るのか？を理解している。	

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。